

第7回 One Book One OSAKA 事業実行委員会

平成30年3月6日 15:00-16:30

大阪市立中央図書館 中会議室

(1) 開会 出席者確認(別紙名簿参照) . . . (別紙①)

配布資料の確認

会計について、新たに実行委員として入っていただいた松下玲子さんをお願いすることとなった。

(2) 第6回投票結果について(集計中) . . . (別紙②)

・投票数・開票結果

まだ全て集計できていないので、別紙より増える見込みだが、大幅には変わらない。リスト以外の絵本では、読み物や、『14ひきシリーズ』や科学絵本、ヨシタケシンスケさんの絵本なども入っている区があった。

・インターネット投票について 162票。大阪府立中央図書館：52票

・各区での開票作業について

・小学校といきいきの開票作業をした。小さい子が多かったが、小学生は『ミッケ!』が多かった。1~5回のOne Bookへの投票も多かった。小さい子どもの投票は保護者が書いているものが多かったように思う。

・読み聞かせのときの絵本が投票されていたこともあった。

・東淀川では体験学習で来た中学生に書いてもらった。

・投票が少なかったが、学校単位で投票してくれたところは『ぼちぼちいこか』や『もったいないばあさん』が多かった。

(3) One Bookの決定について

最多得票：『ミッケ!』(シリーズ)

・『はらぺこあおむし』以外はシリーズだったが、それでよいか?

・常に上位には入っている。

・ちゃんとした物語性のものに決めたほうがいいかも考える。

・迷路絵本シリーズの香川元太郎さんにイベントに来てもらったのだが、迷路から絵本へというリストを作り、他の絵本にも広げていった。切り離すのではなく、迷路から絵本へ繋げるなど、いろんな形があっても良いのでは。

・自分の孫は、『ミッケ!』からはまった。『ミッケ!』を借りて他の絵本もついでに借りて、借りることの喜びにつながっていた気がする。今時はこんなだなと思った。

・『ミッケ!』もリストに入っているし、読み聞かせは別の本で繋げていけばいいのでは、と思う。

・何がきっかけになるかわからないもの。『もこもこもこ』も発行されて10年は泣かず飛ばずだったが、いきなり有名になったので。

→さまざまなお意見が出たが、全員一致で『ミッケ!』に決定。

(4) 投票期間中及び期間終了後の各区の関連イベントについて

- ・各区絵本展等での取り組み
- ・文紙 MESSE (2 日間)、セレッソ大阪ホームゲーム、大阪エヴェッサホームゲームなどでも投票実施
- ・大阪商工信用金庫各店での投票
 - ※セレッソホームゲーム、文紙 MESSE 当日は実行委員の皆様や各区のボランティアの皆様にもご協力いただき、ありがとうございました！

区での取り組みについて

- ・あまり One Book に関わっていなかった。(個人的に関わっているため)
- ・子ども読書の日以降、1 位になった本を紹介する。子ども子育てプラザ等で One Book の投票コーナーも作っていただけた。『おまえうまそうだな』や『100かいだてのいえ』などは小さい子どもが多いので、紹介だけになっている。
- ・知らせることが自分の役目で、北区は新しい保育所が多いので、知ってもらえるようにと思っている。お渡しした保育所で投票用紙の回収にいけなかったら、直接図書館におくってください。
- ・東淀川区では、2 月にえほんまつり、別で各地域でミニえほん展をしている。子どもは投票箱に投票するのが好きなので、イベントでは投票箱を借りるのがよい。

(5) One Book の発表について

- ・4 月 23 日(月)(子ども読書の日)に図書館 HP で発表
- ・発表方法について
 - ・吉村市長による One Book の発表動画を撮影する方向で調整中

(6) 30 年度の One Book イベントについて

- ・ランキング上位に入った絵本を中心に各区で実施
- ・年代別ランキングなども活用する
- ・文紙 MESSE2018 会場などでも OneBook にちなんだイベントを実施したい
 - ・印刷物の作成もするが、ランキングも活用いただきたい。
 - ・小学生は『スイミー』が多いなど傾向がある。
 - ・外部のイベントなど、投票のない年にも工夫をしていきたい。前回の『へんしんトンネル』では全シリーズを集めてもらい、大型えほんも使った。
 - ・「おはなしたのしいでえ」での One Book の活用なども検討してはどうか。

(7) 第 7 回投票について

- ・OneBook の取り組みは「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」(3 月策定予定)の「子どもの読書活動に関する普及・啓発事業に位置付けられている
- ・方式、候補リスト等について
- ・経費の獲得について 引き続き広く公募し、経費獲得に務める。

・投票の多いところは、補助員さんの尽力があるのではと思う。メンバーの中に補助員さんに入っていたかどうかは可能か？直接子どもと接している方をお願いできれば良いと思う。

→補助員自体をメンバーとするのは、学校との関係や勤務の関係もあるので難しいが、補助員対象に研修をしているため、読書普及の活動のひとつとして、取り入れることは可能と考える。（学校として取り組んでいただくことになる。）

(8) 次回実行委員会について

第7回 One Book One OSAKA の投票に向けて実行委員会を実施する。

メンバーの方にひと言ずつ

・平野区では、図書館から遠いところでえほん展をしている。学校などで人気があったものなどをボランティアの定例会で共有している。

・セレッソ大阪スタジアム投票、暑かったがとても楽しかったです。

・毎週土曜日の絵本の読み聞かせでは、投票用紙のえほんを順番に取り上げている。

・えほんまつりで、毎回 One Book のコーナー（えほんひろば）を作っている。ひろばでは読み聞かせもしていないが、親子で楽しんでもらうコーナーで、とても人気があった。

・西淀川区では、11月にふわふわ（えほんてん）を実施している。One Book 投票と展示をしている。それまでの期間にあつまった投票で One Book を発表し、区長による読み聞かせをしている。それを目当てに大勢の方が来てくださる。学校をあげて投票してくれることもある。今年度は吹奏楽とコラボして読み聞かせをおこなった。

・えほんの担当の時間に投票した。

・意外と認知度が低い。朝読でも、そういうものがあつたっけとなって、なかなか広まらない。読み聞かせの時間を平日から土曜日に変更したら、小学生が来るようになったので、こういう工夫が必要かも。

・大型えほんを読むようにしていたが、特にこれといってしていない。『はじめてのおつかい』が5位とは驚いた。今年は読んでみようと思う。

・いろいろやってみた。イオンモールでのえほんひろばなどでも投票コーナーを設置した。日常的にも集めている。ただ、なかなか思うように増えない。

・えほん展で One Book のことを紹介した。乳幼児が多くて、『おまえうまそうだな』などどう伝えるかは技量が問われる。最近では父親の参加も多いように思う。近くの小学生の子ども対象に読み聞かせ講習会をして、その後、ぐりとぐらの格好をして読んでくれた。図書館から少し離れた小学校の子どもたちも、今年は来てくれた。学校は校長先生が変わると、読み聞かせに関する思いが変わることがある。文紙 MESSE ももう少し関わられたかも、と少し残念に思っている。

